

合宿用脚本

登場人物

- ・女
- ・男1、2、3

男1と男3は女と一緒に車にいる。  
女は男2に電話で指示をして、自分のところまで案内をしている。  
男2はそれに従い、振り回されながらも女の場所を目指す。

シーン1 車の中

ケータイが鳴っている。女がそれに出る。

シーン2 (大きな) 道路

男2 「ここからどうすればいい」  
女 「湖までこられる？」

シーン3 森

森の中で生き物が動き、雫が滴る。  
男2は森の中をひたすら湖向かって歩き続ける。汗がにじみ、息が上がっている。

シーン4 湖

男2 「いま湖に出たよ」  
女 「早かったね。で、どんな感じ？」  
男2 「どうってまあ、(メガネをかけながら) それなりに綺麗な景色じゃないかな」  
女 「そうじゃなくて、どんな気持ちなの？」  
男2 「気持ち……？ 風邪気味だし、少し疲れたかな。次はどこに向かえばいい？」  
女 「(溜息混じりに) じゃしばらく右回りしてみて。風邪なら無理せず少し休んでもいいけど。」  
男2 「着いたら連絡してね」  
男2 は切られた電話に疑問を抱きつつ、つぶやく。  
男2 「着いたらってどこに……」  
男2 は困惑した表情ながらも、女に言われたとおりに右回りに歩き出す。

シーン5 女から男2に電話

女 「そろそろ着いた？」

男2 「着いたってどういうこと？」

ここで男2は富士山の壮大な景色に気付く。思わず足を止め、時間がゆっくり流れているかのような感覚になる。

女 「じゃ、その近くの広場で待ってるね」

そこで女は突然電話を切り、男2は呆れる。

シーン6 女のいる車

男2は、広場にポツンと停まっている車を見つける。

窓に近づくが、そこで男1、3の存在に気付く。

女は窓を開ける。

女 「よ、久しぶり」

男2 「……(困った表情)」

シーン7 逆転

今までのシーンを、男女を逆にして撮影。

シーン8 女のいた車(逆転しているので乗っているのは男2)

女が車の窓ガラス越しに困った表情で中にいる男2を見つめる。男2も寂しげな表情で女を見つめる。

おわり